

ベストクラス選定理由書

作成者：菅井三実 伊藤萌 沼田英佑

科目名称	児童生徒を活かす学級経営の実践演習 A (担当教員名：吉川芳則 竹西亜古 山中一英)		
課程	：学部・大学院（修士・ 専門職 ）	開講時期	： 前期 ・後期
授業形態	： 講義・演習	授業規模	： 30名程度
インタビュー対象教員名	吉川芳則 (実施日時：7月20日(水)13時25分～14時；実施場所：教育・言語・社会棟218室)		
インタビュー対象受講者名	永吉洋子 錦織靖恵 (実施日時：7月29日(金)11時～11時30分；実施場所：総合研究棟小会議室)		
選定理由	<p>この科目は、理想的な学級経営というものを求め、望ましい学級経営の在り方と手法を探求する授業と位置づけられたものである。授業評価と以下のインタビューから、専門的な理論と学校現場を繋げる授業展開が窺われ、大学院らしい専門性の高さを感じさせる授業と見られる。</p> <p>【教員へのインタビュー】</p> <p>3人の担当教員は、基本的なスタンスとして学級経営を科学的に見るといふ点で緩やかにまとまりを持ちつつも、それぞれ異なる専門的角度から授業を展開して行ったという。それを統合する作業を学生たちに委ねたことで、学生自らが新しいものを発見したという満足度の高さに繋がったようであり、思いも寄らなかったところに学級経営のヒントや方法があることを学生自らが発見的に理解したことが何より意味深かったと振り返られるとのことであった。具体的には、実践的なグループ演習において、学級経営に関する多様なサンプルが教員から提供されるのを受け、学生同士による話し合いを通して新しいものを作ろうとする試みが重ねられ、協働的な作業の中でこれまで思っていたものとは全く異なるものがあったことを知ったとき、そういうものがあったのかという感動を覚えることができたのではないかとのことである。</p> <p>【学生へのインタビュー】</p> <p>学級経営に関して、それが何に支えられていたのかを理論的に理解するとともに、全く新しい視点から学び直すことができ、理論と現場が繋がる場所に大学院らしい専門性の高さを感じたといひ、教員の講義と学生同士の交流が相乗的に効果を上げた授業だったとのことである。授業の最後にリフレクションが行われることもあり、自分の問いをメモすることによって理解が整理され、蓄積されて行ったことは一つの財産にもなったようである。3人の教員は、異なる専門的視点に立ちながらも、全体として「子どもを育てたい」という一つのコンセプトで貫かれていることが強く感じられ、＜学級経営＞＜社会構成主義＞＜リーダーシップ論＞という3種の視点が学生の中で有機的に構造化されたようであった。</p> <p>【総括】</p> <p>学級経営というものは、学校現場において経験則で対応されることが多い中、全体として、理論的な基盤と実践的な演習が効果を上げたことが窺える授業であり、授業の目的や方法等においても教員の意図と学生の理解が共有されていることが窺える。授業評価の点数の高さ(5点満点の4.1点)、自由記述欄の具体性、インタビューの内容を勘案し、本授業をベストクラスに相応しい授業と結論した。</p>		